

委員から提出された意見と回答

貴重なご意見ありがとうございました。頂いた意見内容については一部要約しております。

また、内容が重複するものについては、ひとつにまとめております。ご了承ください。

議題１ 今年度事業報告と来年度の事業計画について

（１） 令和２年度実績について

No.	内 容	回 答
1	コロナ禍における感染対策により、延期・中止になった会議、研修会、講演会がありますが、なんとか次年度以降に繋がられました。	
2	新型コロナの影響で、会議、研修会、講演会等の活動が中止、延期になり残念です。後ろにずれ込むスケジュールになるようですが、何とか形にしていきたいところです。	
3	ふくし向上ケアカンファレンスには、サービス提供責任者が毎日交代で参加させていただいています。とても勉強になるし、顔の見える関係が嬉しいと好評です。	

（２） 令和３年度事業計画（案）について

No.	内 容	回 答
1	延期と繰り返すのではなく、新たな開催方法による会合や研修会等も検討できると良いです。（Zoom、ビデオ配信等）	集合型での事業実施が困難な状況下においても、多職種連携や住民啓発ができるよう、開催方法について検討していきます。
2	ふくし向上ケアカンファレンスについて、現場の学習になっているので、是非Zoomでも開催できると良いです。	集合型での開催が困難な状況下においても開催できるよう検討していきます。

3	ふくし向上ケアカンファレンスがややマンネリ化して来たように思います。ケアマネが出たい※と熱望するような内容も取り上げて頂きたいです。 ※ターミナル、後遺症、難病など、ケアマネが苦労している事例など	ふくし向上ケアカンファレンスは、地域によくあるケースを通して多職種で自立支援について学びを深めることを目的としています。今回のご意見の場合、ふくし向上ケアカンファレンスで取り扱うことは難しいですが、今後研修会等で取り扱えるように検討していきます。
4	(オ) 口腔観察シート（別紙1）や相談窓口の設置はいいと思う。半田保健所のシートについて、「ない」「ある」の選択肢の他に「時々ある」が入っていると記入しやすいと思います。「気づいたこと」という表現は、「気になること」でも良いと思います。	今後、半田保健所提供の口腔観察シートを在宅の現場において、お試し活用して頂き、現場の意見を踏まえ、東浦町版口腔観察シートを作成します。今回頂いたご意見については、その際に集まった意見と併せて検討していきます。

議題2 在宅医療介護連携部会の進捗状況について

令和2年度ワーキンググループの取組み

(1) ICT・多職種連携ワーキンググループ

No.	内 容	回 答
1	ICTの広域化や利用方法の見直しにより活用の幅の広がりを感じていますが、画面の見やすさ、書き込みやすさは以前の方が良かったとの意見を4～5名から聞いています。	医療・介護おだいちゃんネットワークの画面のレイアウトや機能のご意見については、システム運営会社に要望として随時伝えていきます。引き続き、お気づきの点があればお教えてください。
2	医療・介護おだいちゃんネットワークの活用ができている方、活用した方が良いのにできていない方がいます。医療・介護おだいちゃんネットワークの目的と必要性について周知していただくことが必要であると思います。町内の事業所において、登録されていても活用されていない印象があります。今一度、皆様へ周知できる方法をまず検討してはいかかでしょうか。	医療・介護おだいちゃんネットワークについて、目的と必要性を伝えられるような勉強会等の開催や周知方法の検討について、ICT・多職種連携ワーキンググループを中心に行っていきます。

3	口腔ケアについて、口腔観察シートの活用を進めていくのは良いと思います。観察内容については検討が必要ではないかと思ひます。	今後、半田保健所提供の口腔観察シートを在宅の現場において、お試し活用して頂き、現場の意見を踏まえ、東浦町版口腔観察シートを作成します。観察内容については、東浦版を作成する過程で検討していきます。
4	口腔観察シートのお試し活用時の調査方法について、具体的に検討が必要だと思ひます。観察シートの結果、受診が必要となった場合の連携方法についても検討していけたらと思ひます。	調査方法については、お試し活用開始までに検討します。また、お試し活用時の調査方法及び口腔観察シートの将来的な運用ルールについては、今後検討していきます。
6	口腔ケアは大変重要なテーマだと思ひます。是非、継続的に取り上げていきましょう。	

(2) ACP・住民啓発ワーキンググループ

No.	内 容	回 答
1	コロナ禍のため、住民啓発講演会が実施できず、令和2年度は下地固めの年になった様子です。今年度作成する「これからノート」が住民のお役立ちアイテムになると良いです。少数グループに進行役がついてワイワイ、ガヤガヤと楽しい中で書き込んでみるのも1つの方法ではないかと思ひます。出前講座などで活用できるのではないのでしょうか。	住民のみなさんが、ACPについて知ること、取り組むことのきっかけのツールとして「これからノート」を利用していただきたいです。ACPの啓発方法については、ACP・住民啓発ワーキンググループを中心に検討していきます。
2	パンフレット作成では丁寧に意見集約を行っていただきありがとうございます。良い内容になったと思ひます。	
3	ACPパンフレットについて、何度も意見交換を行い意見を反映していただけたものが出来たと思ひています。	

議題3 電子@連絡帳の運用について

令和2年度ワーキンググループの取組み

(1) 電子@連絡帳の利用実績について

No.	内 容	回 答
1	プロジェクト登録数記事数が少ないのは、医療・介護おだいちゃんネットワークが活用されていない現状を示していると思います。役立つ活用事例や実際に記事を投稿するなどの勉強会を行い、使いやすくする方法を考える必要があるのではないのでしょうか。	令和元年度までプロジェクトの記事数については減少傾向ですが、令和2年度から研修会やワーキングの案内を掲載しているため、少しではあるが投稿記事数が伸びています。今後は、ふくし課からの情報発信や役立ち情報を積極的にプロジェクトに掲載をしていきたいです。また、各専門職等においても連絡ツールとして活用していただきたいです。
2	どの職種からの記事の投稿が多いのか、職種別の投稿内容、活用方法について提示できると、利用者登録をしていますが、活用されていない方への周知になると思います。	職種ごとでの記事の投稿数や投稿記事の内容について、現システムで閲覧する機能がありません。分析を行うには状況把握から始める必要があります。今後、利用者へのアンケートの実施等検討していきます。
3	これからノートが書き直しに適したものか、どうか難しいところかと思います。	

(2) 愛知県内広域連携協定について

No.	内 容	回 答
1	連携の広域化、情報の広域化などとても良い動き（愛知県内後期連携協定）だと思います。もっと活用してもらえよう勉強会など行ってはいかがでしょうか。希望する各事業所に出向いて「ICT教室」などできないでしょうか。	来年度、システム運営会社を招き、勉強会を開催する計画を立てています。なお、希望する各事業所に出向き、教室の開催なども実施していきたいです。
2	使いやすくなり、良いと思います。	

(3) 愛知県内広域連携に伴う運用の変更について

No.	内 容	回 答
1	プロジェクトで多くの情報を得ることができる半面、情報が多すぎることで本来必要な情報を取りこぼしてしまわないか心配な面もあります。	プロジェクトからの情報発信が多いと感じる場合、お申し出頂ければ、プロジェクトごとに通知が届かない仕様に個別設定することが可能です。
2	使いやすくなり、良いと思います。	

議題4 骨折予防プロジェクトについて

No.	内 容	回 答
1	「東うらうら体操」等も連動した取り組みになると良いと思います。	現在、骨折予防プロジェクトの一環として、東うらうら体操のPR動画をYouTubeへ掲載し、周知を行っています。また、東うらうら体操web選手権を開催しており、コロナ禍であっても健康増進ができるような企画を行っています。
2	住民啓発が活発に進められてきたと思います。啓発グッズのデザインも分かりやすく、名札につけて人に会ったと「何？」と聞かれることがしばしばあります。都度簡単に骨折予防プロジェクトの説明を行い「缶バッチ良いな～」と言われると差し上げている。グッズ+説明=啓発となっているように思います。	今後も骨折予防プロジェクトの周知を引き続き行っていきます。なお、骨折予防プロジェクトは、地域の皆さんと共に取り組んでいきたいため、今後も良いアイデアがあれば随時教えて頂きたいです。
3	レシピコンテストは、応募数は少なかったが、乾燥おからパウダーを配布していただけたことで、使う人が増え、意識が高まったと思います。小学生や、老人向けのコンテストに発展してもよいと思います。入賞者のメニュー、参考になりました。	今後のレシピコンテストの実施については未定ですが、レシピコンテストの対象者を検討する際には、今回のご意見を参考にさせていただきます。
4	とても良い取り組みかと思います。こういったものを継続して行って欲しいです。	

その他

No.	内 容	回 答
1	コロナ禍での活動を今後どうしていくかが問題です。今まで通りではいけないので新しい方法を検討していく必要があります。	集合型での活動が困難な状況下においても、多職種連携や住民啓発ができるよう、開催方法等検討していきます。
2	介護保険サービス事業所と契約されている方については、必要な場合の情報共有に関して契約書において同意が得られます。医療・介護おだいちゃんネットワークでの情報共有が、TEL、FAX、メール等での情報共有の延長と捉えるならば、介護保険サービス事業所と契約されている方の本人同意は必要でしょうか。ツールとしての最大のネックは手間だと思います。	医療・介護おだいちゃんネットワークは、利用者が医療・介護の専門職等と限定されているが、インターネット上のサービスのため、同意書を取得している。そのため、同意書の削除をすぐ行うことは難しいが、今後介護保険申請時に同意書を取得していき、少しでも同意書取得の負担を軽減できるよう取り組んでいきたいです。
3	東浦町の「在宅医療・介護連携推進事業」が目指す姿の作戦、事業の目標の病院のケアマネジャー等在宅支援者が円滑にコミュニケーションを図れているかどうかの評価指標の部分で、病院とケアマネジャーの相互連携満足度とあるが、間にケアマネジャーが入ることで、内容がうまく入ってこず、連携がうまくいかないことも時々あります。訪問看護が直接病院と連携を取ることも少なくありません。その内容も追加が必要だと思います。	今後、「病院とケアマネジャーの相互医連携満足度」という項目の追加について検討していきます。
4	いつも気配りありがとうございます。熱心な事務局の皆さんのおかげで気持ちよくお手伝いできます。	

以上